

インドにも誕生した イスラーム帝国



インドでのモンゴル帝国再興を
企図したムガル帝国だが、
ヒンドゥー教徒に対する政策を誤り、
衰退への道をたどる。

**ティムールの子孫、インドの
地でモンゴル帝国を再興**

北インドでは、13世紀以来、デリース
ルタン朝とよばれるイスラームの5王朝
が興亡をくり返し、イスラームのインド支

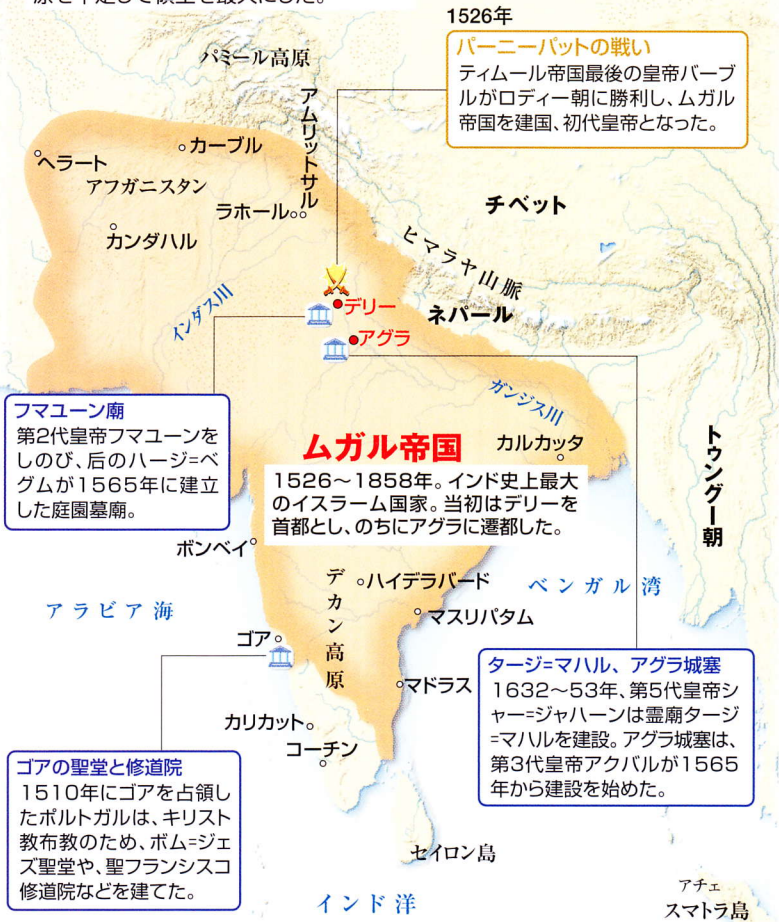
配を進めていた。
1526年、ティムールの子孫バール
は、北インドに進出しデリーを占領ムガ
ル帝国を建てた。ムガルとはモンゴルの意
で、バールがモンゴル帝国(P64参照)の復
興を企図していたことが伺える。

孫の第3代皇帝アクバルは、ヒンドウ
ー教徒との融和策をとり、ヒンドウー教
徒の諸侯の娘と結婚したり、ヒンドウー
教徒に対する人頭税(ジズヤ)を廃止する
などした。この時代には首都をアグラに
遷し、帝国の版図を広げた。

その後、第6代皇帝ア

ムガル帝国の最大版図

第3代皇帝アクバルは北インドからアフガ
ニスタンまでの広大な地域を征服し、さら
に第6代のアウラングゼーブはデカン高
原を平定して領土を最大にした。



トルファン
カシュガル=ハン国

1526年
バーニーバットの戦い
ティムール帝国最後の皇帝バール
がロディー朝に勝利し、ムガル
帝国を建国、初代皇帝となった。

ムガル帝国 カルカッタ
1526~1858年。インド史上最大
のイスラーム国家。当初はデリーを
首都とし、のちにアグラに遷都した。

タージ=マハル、アグラ城塞
1632~53年、第5代皇帝シ
ャー=ジャハーンは霊廟タージ
=マハルを建設。アグラ城塞は、
第3代皇帝アクバルが1565
年から建設を始めた。

フマユーン廟
第2代皇帝フマユーンを
しのび、後のハージ=ベ
グムが1565年に建立
した庭園墓廟。

ゴアの聖堂と修道院
1510年にゴアを占領し
たポルトガルは、キリスト
教布教のため、ボム=ジェ
ス聖堂や、聖フランシスコ
修道院などを建てた。

ムガル帝国時代は、イン
ドの広い範囲がイスラーム
化し、インド古来の文化と
融合して独自のインドイ
スラーム文化が発達した。
第5代皇帝シャー=ジャハ
ーンが亡き愛妃のために
アグラ郊外に建てたター
ジ=マハルは、この時代の
代表的なイスラーム建築
として有名で、ユネスコの
世界文化遺産に指定され
ている。

2度復活した？ モンゴル帝国

ユーラシア大陸の広範囲を占める大帝
国を築いたモンゴルは、やがて分裂し、14
世紀後半にはチャガタイハン国の武将だ
ったティムールがティムール帝国を建てた。
ティムール自身は自らをチンギスハンの
子孫と称し、モンゴル帝国を復興させる意
図をもっていったという。

ティムールは破竹の勢いで近隣諸国を征
服する。バグダードを制圧してイルハ
ン国の旧領土を併合したのち、キプチャク
ハン国やインドにも侵入、さらにアンカラ
の戦いでオスマン朝軍に勝利をおさめ、明
への遠征途上で病没する。
ティムール帝国、ムガル帝国は、共にモ
ンゴル帝国の復興を目ざして大帝国を建
てたもので、モンゴル帝国は2度にわたっ
て復活したといえるかもしれない。



Key Word

シク教 16世紀にイスラームの影響を受けてヒンドゥー教から派生した宗教。開祖はナーナク(1469~1538年)。教義は一神教的で、偶像崇拜とカースト制度を否定し、神の前での平等を唱えた。男性信者は頭にターバンを巻くのが一般的で、「ターバンを巻いたインド人」のイメージはシク教徒からきている。総本山はインド北部のアムリットサルにある。